

令和 2 年 6 月 4 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02532

研究課題名(和文)ゴシック・リヴァイヴァルと19-20世紀フランス文学・美術における植物表象の変遷

研究課題名(英文)Gothic Revival and the Transition of Plant Representation in 19th-20th Century French Literature and Art

研究代表者

加藤 靖恵 (Yasue, Kato)

名古屋大学・人文学研究科・准教授

研究者番号：90313725

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：北フランスの各地で11～15世紀中世美術の植物表象資料収集をし、パリの複数の図書館で12-13世紀の祈祷書の細密画の調査も開始した。ブルーストの中世美術受容研究を中心にしつつ、ラスキンにデッサンとテキストの関係性に着目、イギリスのオクスフォードとランケスターで資料収集をした。最新の植物学の発展と文学の関わりについて、フランス現代詩研究者より情報提供を受け、また名古屋大学生命農学研究科の若手研究者とも意見交換を行った。成果は、フランスでの講演、日仏の査読付学術誌、国際学会でその都度発表した。最終年度には美術史研究者やイギリス文学研究者を招き、国際学会を主催した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

19世紀-20世紀フランスの中世キリスト教美術受容について、特に植物表象に焦点をあてて研究を継続した。文学、美術、科学にまたがる人間の文化的活動と自然観の変化や自然環境との関わり方について、前世紀フランスの事象を研究しつつ、今日の文明と自然環境についての関係性の解明につながる考察を行った。科学先導主義が強まる近現代における、芸術の役割についても検証を深めた。集大成となった名古屋大学における国際学会「ラスキンとフランス」(2019年11月)、日英仏の宗教美術批評の比較、さらに文学、美術の領域横断的な成果を公開するに至った。

研究成果の概要(英文)：I collected documents and photos of botanical representations of medieval art from the 11th to 15th centuries in various churches of northern France, and began to study miniature paintings of 12th to 13th century prayer books at multiple libraries in Paris. Focusing on Proust's medieval art reception, I'm interested in the relationship between drawing and text of Ruskin. So, I consulted his manuscripts and drawings in Oxford and Lancaster. The specialist of French poems provided information on the relationship between literature and the latest development of botany. I exchanged opinions with young researchers of the Graduate School of Life and Agricultural Science of Nagoya University. The research results were presented each time in peer-reviewed journals in France and in Japan, and in international conferences. In the final year, I organized an international conference with art history researchers and British literature researchers

研究分野：フランス文学

キーワード：ブルースト ラスキン エミール・マール ゴシック・リヴァイヴァル 中世キリスト教美術 植物表象

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

19世紀の美術史家らによるゴシック建築の再評価と、その修復を巡る議論については、美術史の専門家によって長年の研究の蓄積がある。また、「ゴシック・リヴァイヴァル」と世紀末文学の関連については、比較文化的研究も存在し、個別作家研究レベルでも数多くの研究者が成果を挙げている。

ロマネスク様式の時代は、古代ギリシア・ローマの様式化された植物モチーフを継承していたが、13世紀に入ると、教会建築に携わる職人たちは地方の身近な植物を彫刻装飾に取り入れた。フランス中世建築における植物の表象に関して、19世紀後半のエミール・ランバンの数冊の研究書と1975年刊行されたドゥニーズ・ジャベールの著作が頻繁に引用されるものの、動物のモチーフと比べて、まとった研究は非常に少ない。彫刻という表現技術では写実性に限界があり、モデルとなっている植物の種類を特定することが困難であることにもその一因があるだろう。

中世と近代の芸術・文学における植物についての論考集は少なくない。19世紀文学に関する論集、印象派やアールヌーボについての解説書や展示会カタログ、また通史的な展望を示す研究書や一般書も本研究計画に大きな示唆を与えた。しかし、現実の自然の様相への注目と独自の表現形式の探求という流れが、両時代に共通している視点は、これまでの研究には欠けていたといえる。

2. 研究の目的

ゴシック建築と中世美術の再評価がなぜ19世紀のフランスとヨーロッパにおいてかくも普及し、芸術ジャンルを越境する大きな運動となったのか。植物のモチーフに焦点をあてることにより、自然観の変遷と科学・技術・芸術表象をめぐる状況が、13世紀と近代において隠された、しかし実は顕著な類似性を示すことに目指す。フィードワークや文献調査を通してゴシック時代の植物の図像学について彫刻を中心に検証するとともに、ロマン主義からシュールレアリスム及びアールヌーボに至るまでの文芸・美術の流れへの影響の可能性を実証にする。

3. 研究の方法

フランス及びヨーロッパの文学・美術史、生物学、工学にまたがる研究テーマであるため、文献調査をし、理論的な分析を進めるにあたっては、日仏の隣接分野を含めた関係研究者から情報や意見を受け、学際的な研究の位置づけを常に意識して計画を遂行する。フランス、カナダ、アメリカの大学図書館がインターネットで公開している電子テキストを活用して幅広い文献調査をする一方、年2回のフランス調査旅行ではマール草稿や中世関連の稀少本や写本等の資料を集中的に分析し、また考察の対象とするゴシック教会建築についてのフィードワークを行う。

4. 研究成果

2016年度

前年度までに集めた文献・写真資料のうち、アミアン大聖堂、リジュー大聖堂、タン教会にしぼって整理をした上で、考察をし、パリ第3大学のプルースト研究所で講演、さらに日仏の専門誌に論文を発表した。その過程で、ゴシック様式の特色を分析する上で、前後の時代の植物表象の変遷を詳しく辿る必要が生じ、対象を11世紀～15世紀に広げて、夏のフランスでの調査で

はイル・ド・フランスの 教会の彫刻とステンドグラスの写真撮影と資料収集を行った。現地調査は今回はシャトーダンとその周辺の教会，レザンドリー，シャルトル，パリで行った。関連する文学テキストについては，引き続きプルーストとラスキンに重点を置いた。前者については競売等で発掘されたり，アメリカ の図書館が所蔵している草稿資料も対象とした。その成果の一部を国際学会で発表し，日仏の専門家のレビューを受けた。またエミール・マールによる 12・13 世紀宗教美術に関する草稿メモのうち，植物と動物のモチーフに関するものの転写の見直しと整理を行った。 その際にマールが言及している彫刻，壁画，ステンドグラス，写本等の画像の資料の収集も行った。フランス国立図書館，フランス学士院図書館で文献を閲覧し，またフランス国立科学研究所近代草稿研究所のプルースト班より，メール等の手段も通して資料収集の協力を得た。

2017 年度

本年度特に調査の重点をおいたのは，フランスのノルマンディー地方の複数の教会において，建築時期による彫刻表象の様式の変遷と修復の問題である。サンピエール・スール・ディーヴ教会，エヴルーのノートルダム大聖堂とサン・トラン教会における現地調査，写真撮影を行い，これまで収集した資料と比較して，検証を行なった。関連するプルーストのテキストとその草稿についての考察と結びつけた論考をフランスの専門誌で発表した。キリスト教芸術をめぐるプルーストの言説におけるラスキンの影響の深化について，先行研究を見直し，さらに緻密な年代設定を行い，新たな仮説を立てるに 到った。成果はフランスの学術誌 Roman 20/50 誌の特別号 に受理された。それにあたっては，イリノイ大学のコルブ・コレクションの『ジャン・サントゥイユ』草稿についての詳しい情報提供を受けた。また，研究代表者が在外協力員をしているフランス国立科学研究所の近代草稿研究所のプルースト班との情報交換や研究打ち合わせも，現地および日本からのメール等の手段でひんぱんに行った。文学における植物のテーマと植物学の発展の関連についてフランス現代詩の専門家アニエス・ディソン氏を招聘し，講演会と情報交換を行った。フランス学士院図書館では，昨年に引き続き，エミール・マールによる 12・13 世紀宗教美術に関する草稿メモのうち，植物と動物のモチーフに関するものの転写の見直しと整理を行った。 その際にマールが言及している彫刻，壁画，ステンドグラス，写本等の画像の資料の収集も行った。

2018 年度

エミール・マールの草稿の筆写と分析を継続する一方で，マールが言及している 12-13 世紀の祈祷書の細密画も新たに調査の対象とし，パリのアルセナル図書館 で原本の閲覧を許可され，資料の収集をした。同様にサント・ジュヌヴィエーヴ図書館所蔵の写本についての調査も開始した。また，フランスのヴェズレー教会内部の柱頭の動植物の彫刻についての文献調査と現地での写真撮影を行った。特に本年度考察の対象としたのは，ゴシック建築における植物のモチーフと人物像の取り合わせの問題である。改めてジョン・ラスキンの言説の検証も行った。19-20 世紀フランスにおける中世キリスト教美術の自然観の影響を述べる上で，ラスキンの果たした役割の重要性を再認識し，フランスで近年ラスキン研究の中心となっている研究者数名および国内のフランス文学・西洋美術史研究者と情報交換を始め，日本フランス語フランス文学会秋季全国大会にてそのうちの 3 名と ともにフランスにおけるラスキン受容についてのワークショップに参加した。イギリスのアシュモレアン博物館所蔵のラスキンのデッサンの調査を開始した。特に聖母マリアの身体性の表象について，エミール・マールのメモと最終稿の比較を行い，マール

ル草稿研究の具体的な成果発表と足がかりとした。

2019 年度

19 世紀~20 世紀のフランス文学におけるゴシック・リヴァイヴァルの影響の考察の成果の一部を、マルセル・プルーストの著作における植物のモチーフに焦点を当てて、フランスのシャンピオン社より刊行した(5月)。これまでの研究成果を2つの国際学会(6月フランス,9月大阪)とフランス語圏研究者集会(名古屋)で発表した。11月は名古屋大学にて、「ラスキンとフランス」と題した国際学会を主催、フランス、アメリカ、及び国内より、フランス文学、イギリス文学、美学美術史の研究者を招聘し、加藤本人も研究発表を行った。6月にはオクスフォードで、1月にはランカスターにて、ラスキンのデッサンと日記(草稿)の閲覧と資料収集を行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 12件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 Yasue Kato	4. 巻 68
2. 論文標題 Discours du cure de Combray : la metamorphose de la geographie imaginaire autour de l'eglise	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Bulletin Marcel Proust	6. 最初と最後の頁 79-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yasue Kato	4. 巻 37
2. 論文標題 La representation de l'ame de la Vierge dans la Dormition : d'apres les notes d'Emile Male	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Stella/九州大学フランス語フランス文学会	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加藤 靖恵	4. 巻 23
2. 論文標題 中世カトリック美術を論じるラスキンを巡って 美学、宗教、偶像崇拜の問題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Cahier / 日本フランス語フランス文学会	6. 最初と最後の頁 22-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤靖恵	4. 巻 36
2. 論文標題 ブルーストとノルマンディー地方の教会 : リジュー とタオン	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Stella	6. 最初と最後の頁 101-118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yasue Kato	4. 巻 66
2. 論文標題 Proust et les eglises normandes (Lisieux et Thaon)	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Bulletin Marcel Proust	6. 最初と最後の頁 41-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤靖恵	4. 巻 35
2. 論文標題 アミアンの黄金の聖母とサンザシの生垣-- 『失われた時を求めて』ジルベルト登場場面の生成	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Stella : etudes de langue et litterature francaises	6. 最初と最後の頁 101-118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yasue Kato	4. 巻 56
2. 論文標題 Le charme passager des jeunes filles de la classe populaire dans A la recherche du temps perdu: ajouts du Cahier 34 sous la lumiere du Carnet 2 et du Cahier 54	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Gallia	6. 最初と最後の頁 61-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加藤靖恵	4. 巻 38
2. 論文標題 コンプレーの司教のおしゃべり 教会が位置する空想の地図の変遷	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Stella	6. 最初と最後の頁 23-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yasue Kato	4. 巻 69
2. 論文標題 Statue d'Albertine retrouvée en mer : la cloture de l'ombre des jeunes filles en fleurs	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Bulletin Marcel Proust	6. 最初と最後の頁 40, 55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yasue Kato	4. 巻 67
2. 論文標題 Proust et Ruskin : la naissance de l'écrivain-critique-traducteur et le projet Jean Santeuil	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Roman 20/50 : Puis-je appeler ce livre un roman ?	6. 最初と最後の頁 75-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yasue Kato	4. 巻 0
2. 論文標題 Proust contre la critique génétique : traces d'autodestruction dans le Cahier Violet	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Proust et la critique	6. 最初と最後の頁 59-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤靖恵	4. 巻 0
2. 論文標題 波間に漂うアルベルチーナの彫像--- 『花咲く乙女たちのかげに』の結末を巡って	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Correspondances 北村卓教授・岩根久教授・和田章男教授退職記念論文集	6. 最初と最後の頁 411-423
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 1件/うち国際学会 6件）

1. 発表者名 加藤靖恵
2. 発表標題 中世カトリック美術を論じるラスキンを巡って 美学、宗教、偶像崇拜の問題
3. 学会等名 日本フランス語フランス文学会秋季大会 ワークショップ「ラスキンとフランス」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yasue Kato
2. 発表標題 Proust et les cathedrales : les plantes sculptees a Amiens et a Lisieux
3. 学会等名 Le Centre de recherches proustiennes セミナー 講演（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yasue Kato
2. 発表標題 Proust contre la critique genetique? Traces d'"autodestruction" dans le Cahier Violet
3. 学会等名 Proust et la critique (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yasue Kato
2. 発表標題 Comment clore un roman ? e;tude genetique des dernieres pages de A l'ombre des jeunes filles en fleurs
3. 学会等名 4es Rencontres des Chercheurs Francophones du Kansai a Nagoya (RCFK 2019 Nagoya) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yasue Kato
2. 発表標題 Statue d'Albertine retrouvée en mer : la cloture de A l'ombre des jeunes filles en fleurs
3. 学会等名 国際学会 A l'ombre des jeunes filles en fleurs, prix Goncourt 1919, パリ第3大学(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yasue Kato
2. 発表標題 Profil de Proust contre Ruskin, ebauche dans le montage par Fallois
3. 学会等名 国際学会 Proust et l'esthétique de la réception(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yasue Kato
2. 発表標題 Ruskin face à l'art catholique : les statues et les motifs végétaux
3. 学会等名 国際学会 Ruskin et la France(国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Yasue Kato	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Honoré Champion	5. 総ページ数 233
3. 書名 L'Evolution de l'univers floral chez Proust : de la Bible d'Amiens à La recherche du temps perdu	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----